ぶらり日光 ブランド探訪 vol.8

くわしくは 総合政策課 日光ブランド戦略室 ☎(21)5131

長い歴史と豊かな自然に囲まれた「美肌自慢」の湯

今月の日光ブランドは「奥日光湯元温泉」

日帰り温泉施設数日本一を誇る日光市。市内には70近くの施設があり、さまざまな地域資源を楽しみながら湯巡りができるのは、日光市ならではの楽しみ方です。

今回紹介するのは奥日光湯元温泉。奥日光の湯ノ湖湖畔にあります。旅館街の奥に湯の元があり、源泉がふつふつと湧き出て、生きた温泉の姿を目にすることができます。また、原生林が残る高原の自然を満喫することができるのも大きな魅力です。

奥日光湯元温泉は、日光開山の祖、勝道上人が延暦7(788)年にこの地に湧出している温泉を発見し、薬師の湯と名付けたことが始まりです。

源泉の近くには日光山温泉寺があり、全国でも非常に珍しい、温泉に入れる寺として有名です。泉質は硫黄泉(硫化水素型)で、1リットル当たりの総硫黄量55・7ミリグラムは、全国4番目の濃さとも言われています。メタケイ酸が多く含まれおり、美肌効果に優れ、糖尿病や神経痛、慢性婦人病、病後回復期などにも効能があります。

また、全国でも数少ない自噴泉であることが特徴です。源泉の温度は78度と高く、透き通っていますが、空気に触れたり、水を入れたりすることにより緑がかった乳白色のにごり湯へと変わっていきます。天候や気温によっても温泉の色は微妙に変化します。湧出量は、毎分約2、000リットルと豊富で、各施設は湯の元から源泉を引湯しており、光徳や中禅寺温泉にも配湯しています。スノーボードやソリ遊びの後の雪見風呂も最高ですよ! もちろん、宿泊してのんびり過ごすのも楽しみの一つです。

ふつふつと湧き出る源泉

進め! 地域おこし協力隊 8

くわしくは 地域振興課 地域振興係 ☎(21)5147

皆さんこんにちは! 足尾の地域おこし協力隊の中山(なかやま)です。私たちは、足尾の地域資源を生かしたものづくりに取り組んでいます。

足尾の山々は全てがハゲ山というイメージは大間違いで、夏には深い緑で覆われ、秋には鮮やかな紅葉が見られます。煙害や火災、伐採で失われた木々も、古くは女性が活躍した植生盤による国・県の植林事業や市民団体による植樹活動で、今では見違えるほどです。

間伐で出された木材を生かしたものづくりを考えていた時に出会ったのが、足尾の民芸品「孝行猿」。リョウブの木を使った可愛らしい猿を、数年前まで足尾の住民が作っていました。足尾の「猿になった娘の伝説」にちなんだ物で、観光客向けの商品だけではなく、商店や多くの家庭に置いてあり、伝説とともに地域で愛されてきました。

「孝行猿が作られなくなって寂しい」「せっかく足尾らしい素晴らしい民芸品があるのにもったいない」そんな声を耳にして、孝行猿の復活に取り組んでいます。

リョウブの木はとても硬く、オリジナル作品の様な素材を生かした美しい曲線をまねることはとてもできませんが、柄に孝行猿を彫った杖(つえ)やボールペン、通称「子孝行猿・孫孝行猿」というミニ孝行猿のストラップなど、孝行猿を取り入れた作品にも挑戦しています。地域内の自治会で開催した絵付け教室では、自由な絵付けも楽しく、個性ある作品ができました。

今後も、教室を人が集まるきっかけとして、木を通して足尾の自然の素晴らしさを発信していきたいです。

『孝行猿』を自由に絵付け!

ボールペン作りに挑戦!

小杉放菴記念日光美術館

〒321-1431 日光市山内2388-3 TEL:50-1200
ホームページ http://www.khmoan.jp/

市民割引券

(1枚につき、5名様まで有効)
開館時間:午前9時30分~午後5時
休館日:毎週月曜日(祝日などの場合は翌日)

KOSUGI HOAN MUSEUM OF ART, NIKKO

切り取ってご利用ください

環境省日光自然環境事務所/小杉放菴記念日光美術館 特別企画
シンポジウム「国立公園の成り立ちと感性的経験 観光美学の展開に向けて」

国立公園絵画展の開催に合わせて、美学の視点で自然と観光を考えるシンポジウムを開催します。

今回のシンポジウムは、景勝地で観光を楽しみ、優れた風景を記録し、独自の表現で造形化された作品を鑑賞する行為と、自然を保護する人々の思いがどのような相関関係でつながるのかという問題がテーマとなります。パネリストに観光美学という新しい観念を提唱している美学者と大学教授を迎え、人間の感性的経験をキーワードに語り合います。

ぜひ、ご来館ください。

田辺 至(たなべいたる)氏が「秋の戦場ケ原」を描いた場所

と き: 12月21日(日)午後1時30分~3時30分
場 所: 美術館エントランスホール
パネリスト: 津上英輔(つがみえいすけ)氏(成城大学教授)、早川恭只(はやかわきょうし)氏(美学者)、内野博子(うちのひろこ)氏(美学者)、小河原あや(おがわら)氏(美学者)
参加料: 入館料のみで参加できます。
参加方法: 美術館に電話で申し込む

※美術館は12月24日(水)~31日(水)は休館になります。

連載 世界遺産 日光の社寺

教育委員会事務局 文化財課 日光市中央町15-4 ☎(30)-86-

日本は古来から山や樹木などの自然に「神」が宿っていると考える素朴な多神教である神道を信仰してきました。

西暦6世紀、聖徳太子が活躍していたころ日本に仏教が広がります。仏教は古代インドに始まりますが、中国に伝わると非常に洗練されたものとなり、やがて日本に伝わります。外国の宗教である仏教に触れた日本人は大きな衝撃を受けました。それは純粋な宗教としてだけではなく、それに伴うさまざまな関連技術に対してでした。

◆「日光」の始まり

日光の歴史は、奈良時代に始まる長い歴史を有しています。そして、日本の神仏習合の代表例として世界遺産に登録されたことをこれまで説明してきました。

また、日光が勝道上人の男体開山に始まり、男体山はかつては二荒山と呼ばれ、これが二荒山神社の由来になったことをご存じの方も多いと思います。

それでは、山内にある世界遺産と、いろは坂を上った奥日光にある男体山がどのように結びつくのでしょうか。なぜ、二荒山は男体山と名前を変えたのでしょうか。そもそも、なぜ勝道上人は男体山の山頂を目指したのでしょうか。これらの「なぜ」を解きほぐすことで、日光の歴史と世界遺産の関係がはっきりしてくるのです。

◆神道と仏教

「日光の社寺」のテーマは神仏習合です。神仏習合とは「神と仏を区別しない」ということです。

男体山と中禅寺湖